

# みなさまの参加をお待ちしています



8月25、26日の二日間で、中川原地域交流会のみなさんと一緒に10体を完成させました

# ふくろう新聞

<発行>

特別養護老人ホーム  
淡路ふくろうの郷  
広報委員会

洲本市中川原町中川原 28 番地 1  
TEL: 0799-25-8550  
FAX: 0799-25-8551  
ホームページ

<http://www.normanet.ne.jp>

<http://hyoufuku/>

## 第7回ふくろうふれ愛まつり

とき: 2012年10月28日(日) 10:00~15:00 (小雨決行)

昨年の様子



8月20日(月)「ふくろうふれ愛まつり」第1回実行委員会が開催されました。

今年、色彩心理学療法士の志方美保子さんの協力を得て「ファッションショー」が計画されています。入居者の皆さんが思い思いに画用紙に絵を描き、色をつける作業もしました。どのようなファッションショーになるのかご期待ください。

舞台新企画  
色彩心理学療法による  
ファッションショー

スーパーヒーローマンズ(超人)が熱い闘いを繰り広げたロンドnpラリンピック。手足の欠損、運動機能障害、視覚障害等の選手たちがこの世の生を謳歌しました。淡路ふくろうの郷で運転業務に携わる宇城守さんのご長男、元(はじめ)さんもその一人。パワーリフティングで180キロを見事持ち上げ、世界第7位に。感動をありがとう。そして、拍手!

### 入居者参加によるファッションショー 「ふくろうコレクション」

今年の目玉は入居者による「ファッションショー」です。色を多く使い、楽しみながら「私らしさ」を表現するテーマで行います。他に「着ぐるみ」「飴玉掴み」「スタンプラリー」など、楽しい企画がいっぱいです。おいしい食べ物が並ぶ「模擬店」、手話劇や歌などが楽しめる「舞台発表」も予定しています。

また、今年、中川原高齢者・障がい者地域ふれあいセンター開所に伴い、センターでも「バザー」「文化展」など楽しめる企画を考えています。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

**舞台出演  
模擬店  
ボランティアさん  
募集中!!**

# 夏の思い出 初めての「慶野松原」海水浴場



▲真夏の日差しの下、初の慶野松原を堪能

8月9日・11日・12日に、毎年恒例の海水浴を行いました。

9日は、入所者からの「毎年一緒の場所はつまらない」との声をいただき、今年は慶野松原の海水浴場に行きました。たくさんの方がおられ、にぎやかな雰囲気を楽しませていました。

11日・12日は、天候が悪く海水浴はとりやめ、施設の玄関で、スイカ割りを行いました。

普段はお出かけできない方にも、参加してもらうことができ、楽しいスイカ割の後、美味しくいただきました。

(生活相談員・竹原)



入居者・職員一緒に楽しみました



すいか割り



## 初の職員バーベキュー大会 心合わせて・ガンバロー

8月29日(土) 33名の職員とその家族によるバーベキュー大会。天候の関係で急きよふくろうの郷で行いました。

実習中の大学生も交流をかねて参加、準備には多くの職員の協力を得て開催できました。

当日、野菜持参の職員もおられ、バーベキュー大会にふさわしい盛り上がりでした。

特に、参加男性職員の根性試し(氷水に頭をつけていく)は参加者から喝采でした。

これからも定期的に職員が集まり、交流ができる機会をもてたいと思う催しでした。

(生活援助・山西)



## 久しぶりの再会 相良さんご主人お見舞い

8月30日(木)に、以前より入院中の相良理(ただし)さんを、奥さんのヒサ子さんがお見舞いに行かれました。ヒサ子さんは淡路ふくろうの郷に平成19年より入居されています。

ご主人の理さんは時々ショートステイを利用していらっしゃいます。理さんが入院されてからは、会えなかったため、ヒサ子さんはとても心配されていました。

久しぶりの再会ということもあり、二人とも大変喜ばれ笑顔でお話をされました。

(相談員・加野)



お話をされるお二人

# 「兵庫県の聴障者の暮らしと要望調査事業」検討委員会が発足

現在、検討委員会で意見交換している内容を紹介します。

## 何のために調査事業をするのか

阪神淡路大震災(1995年1月)や、台風23号(2004年10月)などの体験は、「弱くてもろい社会(国際障害者年行動計画)」とはどんな社会なのかを身を持って体験させられました。

災害は、隠されていた「脆くて弱い社会・貧弱な暮らし」|| 聴覚障害者福祉の法制度と福祉事業の貧しさの実態をさらけだしました。

つらい被災者であつたが故に、「一人ぼっちの仲間をなくすこと」「最も困難な状態にある仲間を支える」活動に力をそそいできました。

困りごと・悩み事・楽しみごとを把握し、「当たり前前の普通の暮らし」「当たり前前の普通の社会」の中身をはつきりさせよう。

行政においても努力が重ねられています。聴覚障害者の実態とニーズが適切に反映されるように考えています。

神戸市内に限らず、全国的に、高齢や病気で在宅化し、心理的精神的な苦悩をかかえる相談が増加し、引きこもりも増え続けています。手話などの言語で通じ合える就労支援事業所は県内に4箇所しかなく、しかも神戸市ろうあハウスは狭くて不衛生といった現状です。

① あの災害から17年、今の兵庫の聴覚障害児者・家族等の生活と困りごと・楽しみごと・要望などを面談で書きとりします。

② それを3・11大震災に関する他の団体の調査成果とも比較分析します。

③ 兵庫における聴覚障害者福祉事業の充実への課題を明らかにします。

## 事業内容

兵庫県の聴覚障害者生活実態とニーズ調査

① 時期2013年6月〜3月  
対象者 兵庫県内の聴覚障害児・者で協力いただける方

② 実施体制

本委員会と作業委員会。全日本ろうあ連盟・ひょう聴障ネットの協力要請

検討委員会メンバー

嶋本・小林・仲井・廣瀬・木村・大矢・辻・中村

研究者：志藤先生(大谷大学)・小坂先生(大阪健康福祉短期大学)

③ 成果物

調査報告書 書記日本語版並びに手話版(DVD・手話映像)

手話版は書記日本語の獲得が妨げられたため、手話しか選択できないろう者に配慮するもの。

④ 事業費

民間の助成団体に要請(準備中)



小坂先生 (大阪健康福祉短期大学)



志藤先生 (大谷大学)

## 「ろう者の親として、子育てから見える社会」

講師 岩林 恵子氏

7月28日第18回ふくろう学習会に、岩林恵子氏を講師としてお招きし、約40名のご参加をいただきました。

内容は、稲美町で子育てをしながらろうあ協会や手話サークルを設立されてきた経験談を中心に、子育て中の苦労などをお話いただきました。

「自分たちが暮らしやすい社会を作るためには、自分たちで声をあげて行動していかなければ、良くなれない」というお話しが心に残りました。

4人の子どもの育児など忙しい中で、様々な運動を一生懸命にされてきた体験を楽しそうに話される岩林さんの表情や、その強い思いに感銘を受けた講演でした。(相談員：竹原)



## 日本にも

### 障害者差別禁止法を

ひょう聴障ネット・夏の学習会

8月19日(日)、職員5人(中村・辻・谷口・野地・加野)で学習会に参加してきました。

5月の総会に続き、夏の学習会でも藤原精吾弁護士(講演を聞きました)の講演があり、その話を受け藤原先生から障害者の差別、人権侵害に関する裁判事例、「合理的配慮」などを学びました。また、今日日本で必要なことやアドバイスももらいました。

日本は、まだ障害者差別禁止法が制定されていないとのことでした。

完全参加と平等、差別的のない社会、合理的配慮のある社会制度として確立することは障害者が安心して暮らせる未来につながるのだと言っていました。

そのためには障害者の主張を受け止め、多くの人との協力・連携を広げ国や行政に制度の改善、禁止法を制定させる力を大きくしていかなければならないと改めて思いました。(生活援助：野地・谷口)

ようこそ☆サマーボランティアさん

おのころの家



〒656-0025  
洲本市本町3丁目1-10  
清水マンション1F  
TEL・FAX 0799-26-0956

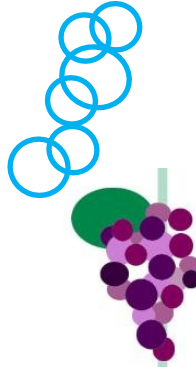


▲カレンダーの写真や絵を再利用してパズル作り  
完成後、一緒に「ハイ、笑顔☆」

8月、「サマーボランティア体験スクール」で8名の学生さんが6日に分けておのころの家にお越しくださいました。

日高高校(豊岡市/看護科・看護専攻科)の学生さん1名、淡路看護専門学校(学生さん5名、洲本高校の学生さん2名)です。

学生さんたちの手話での自己紹介に、利用者のみなさんはとっても優しい笑顔になられ、いくつかの質問も飛び出しました。学生さんたちから今回の感想をいただきましたので、ご紹介します。



◆今回の体験で、聴覚に障害を持っている人たちが生き生きと、充実した生活を送られていることが分かりました。手話にも一人一人の個性があることを知りました。上手くコミュニケーションを取るためには多くのろう者、多くの手話と出



▲「帽子ストラップ」製作中  
通訳はほとんど必要ありませんでした



▲おのころ屋で  
お二人ともとても手際がイイ!

会うことが一番良い方法だと思います。

◆手話でのコミュニケーションは初めての体験でした。最初は利用者さん同士のやり取りを見てもすごく手の動きが早くついていけず、不安になったのですが、一緒に作業していると、利用者さんは手話を教えてくれたり、私が手話を使えなくてもすごく明るく接してくれて、楽しく過ごすことができました。

意思疎通の方法は手話の技術に加え、「表情」や「伝えたいという気持ち」がとても大きく影響することを学ぶことができました。

◆手話を覚えるにはまず「覚えたい」という気持ちが大切だと教わりました。おのころの家の人たちと接して、「私もがんば

ろう」と思えました。

◆ろう者や難聴者の方々とお話しするのは初めてだったので最初はドキドキしていましたが、みなさん、積極的に話しかけてくださり、緊張はすぐに解きました。

みなさんのお話を「理解したい!」と思いつながら接すると、なんとなく分かる部分もありました。言葉で伝わらなくても、手話・身振り・表情で気持ちは伝わるのだと学びました。

◆聴覚障害の方々と関わるのは今回が初めての経験でした。今まで意思疎通を図る時に何かを意識するということはありませんでした。看護実習の現場でコミュニケーションが難しい方と出会っても、「病気だから仕



▲帽子ストラップ完成! ボランティアさんと先生役だった岸野さん



ラッピング、実費にて承ります。  
まずはご相談ください。



★ 焼き菓子詰め合わせ ~プレゼント・御進物用に~ ★  
(カゴ/100円) (箱/100~200円) (袋/50円) のし付可



秋に向けて新作パンを試作しています。カレーパンは少しピリ辛味。さつまいもパンは程良い甘さです。今後、天然酵母を使ったパンにも挑戦しようと、現在、勉強中です。

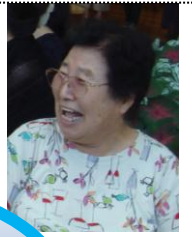
方ない」という思いがどこかにあります。しかし、私の思いが伝わらなかったのは、相手のせいではなく、私から伝えようとしていなかったからだと思います。大切なことに気付かせてくれたおのころの家に、ぜひまた立ち寄りたいです。

初めまして、と何人からもあいさつされた松田さん。未就学です。身振りを交えた手話で得意な農業、釣りについてたくさん話してくれました。近隣の人も身振りで交流しています。

最近は行事の参加がめっきり減っていた大田原さん。久しぶりの参加を楽しみに早朝より家業の牛の世話をしていた。とても働き者です。

一人暮らしで不安。先日、ドアホンを新しく取り付け安心と嬉しそうに話す巖さん。

## 淡路聴覚障害者センター



### 手話と笑顔はじけて

サークル津名の森田さん。ろう者の話がたくさん聞けて良かった。もっと手話を身につけたいと、改めて決意しました。



多忙な淡聴協会長の斉藤さん。近所の人から「車のエンジンをかけたままですよ」と知らされた、と近隣との関わりについて話す。



年配のろう者が生き生きと話をしている姿を知り、良かったと話す三浦さん。

いつもは遠慮がちに聞き手に回る岸野さん。今日はろう学校や仕事、家族のことなど雄弁に話してくれました。

入院中の土井さん、今日は病院から外出の許可を得て参加。久しぶりにろう者、サークル会員との会話を楽しましました。

ろう者の暮らしから学ぶって大事だね。



**みんなで輪になって...**ろう学校の思い出、仕事、趣味、家族とのコミュニケーションなど一人ひとりの暮らしが語られました。輪に連なって手話で話せる喜びが笑顔となり輝いています。どの方の話しからも、歩んできた苦労やくやしさがあふれています。それを乗り越えて来られたたくましが誇りなのです。もっともっと話がしたい、そんな声を次につなげていきたいと思ひます。



### お知らせ

**10月8日(月) 10:30~15:00**  
 ミニ交流会 in 南あわじ市  
 “暮らしや生活のこと気軽に話そう”

**10月24日(水) 10:30~17:00**  
 移動相談：淡路市津名地区  
 午前：津名事務所 午後：家庭訪問

**お問い合わせはセンターまで**  
 TEL0799-24-3850 0799-26-1175

### 聞きにくい方へのコミュニケーション支援学習会

(8月19日 社会生活教室)

サイコロを使いゲーム感覚で読話の練習。口元を読み取るのは難しい、支援者も理解が必要と学びあいました。

### メタボの予防

(8月16日社会生活教室)

「食材や調理法でカロリーが変わるので工夫を」と話される山中講師。(淡路ふくろうの郷栄養士)

# 続・地域を語る

## 第45回

### 郷土の農作業歌 三題

(唄・中川原村史より引用)

#### ▽麦から節

面白いのは唐竿がちよ、  
上できりりと舞落ちる  
上できりりともて下がる  
麦をかなならたにがきしましよ  
おれと人手と  
こじゆうと女とよ、

※農業機械のない時代、扱き  
落とした麦の穂を、筵に広げ  
て乾燥した後、唐竿(くるるさ  
お)で叩いて打つときに唄われ  
たうたで、地にこもる響きと  
ともに麦埃が立ち、大変な作  
業であった。

#### ▽虫送り唄

太鼓打つシユはど(衆でいやる  
書写の播磨の書写坂本の  
大ユの娘「きよ」がよい  
ことしゃ世がようて  
穂に穂が咲いて  
道の小草に金子(こめ)が生  
(なる)

※農薬のない時代、農家は夏  
の土用の丑の日に、寺院で護摩

を焚いて五穀豊穡(ごこくほう  
じょう)を祈願していた。

その日、病気にかかった稲株や  
アオムシ・ツトムシなどを取つて  
稲の葉っぱに団子を入れて包  
み五穀豊穡を祈願して焼却  
し、4個を残して東西南北の  
邑境(むらざかい)まで、カネ・  
太鼓を叩いて送り出した時に  
唄われたのが「虫送り唄」であ  
る。

#### ▽粃すり唄

キリリ、クルリ廻るは淀の川

瀬の水車

奥で一人り米つく水車

誰を待つやらクルクルと

切れた草履も粗末にやならぬ

お米育てた親じゃもの

白よまわれよ

まわれよとうす

しほてねんかよねむたいわ

※粃摺機のない時代、土製の  
磨臼(すりうす)で粃すりを行  
つて玄米にする作業で、農家の  
人達は納屋で昼夜の別なく行  
われていた。

粃をする音もゴリゴリ  
と独特な音で作業に合わせて  
唄われたのが「粃すり唄」で今  
では土製の磨臼もなく唄も耳  
にすることがなくなつた。

# 利用者・見学者がぞくぞくと

〜中川原高齢者・障がい者地域ふれあいセンター〜

中川原高齢者・障がい者地域  
ふれあいセンターが開所して二ヶ  
月が経ち、中川原町の皆さまに  
気軽に利用していただける施設  
として日々開館しております。

開所来、見学の問合わせも多  
数あり、先日8月19日には遠く  
鳥取県からの見学もあまりました。

中川原町内会と法人との協働  
によって出来上がった施設に関心  
の高さを感じます。

「学校」は地域の財産です。  
一人ひとりに思い出があり、地  
元の大きな思いがあります。

当ふれあいセンターは中川原  
町の皆様に気軽に集まり、くつ  
ろげる場所として利用できる施  
設です。  
ぜひ、足を運んでいただけるよ  
うお待ちしております。



■お問い合わせ  
TEL:0799-28-0990  
FAX:0799-28-0992

## 遊び水あそび!

### ふくろう喫茶&カクテルバーのおしらせ

本格カクテルを味わえます

#### □ふくろうカクテルバー

日時: 10月18日(木)

13:30~15:00

1盃300円より。  
ノンアルコールのカクテルも  
あります。



#### □ふくろう喫茶

日時: 10月21日(日) 13:30~15:00

コーヒー・紅茶・ココア・  
カルピスなど

1杯200円より  
入居者さんと一緒に、楽し  
い時間を過ごしましょう!



皆様のおこしをお待ちしております

## 第7回 ふくろうふれ愛まつり 模擬店募集のお知らせ

10月28日に開催されます「ふくろうふれ愛まつり」に模擬  
店を出店して下さる方やグループの募集を行っています。

毎年出店して下さる方から初めて出店したいという方まで問  
いません。

お問い合わせはこちらまで。

TEL:0799-25-8550 FAX:0799-25-8551

メール: fukurou-sodan2960@ever.ocn.ne.jp

担当: 船越・石川・竹原

